

令和5年度 第3回 丹波篠山市環境審議会 会議録

記録：農村環境課

■開催日時

令和6年3月18日（月） 19時00分～20時50分

■開催場所

四季の森生涯学習センター東館 大会議室

■出席者

委員 16名

事務局 4名

■欠席者

委員 4名

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

1. 開会

2. 報告事項

(1) 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）本編と概要版について

事務局

（資料1に基づき説明）

A 委員

（素案本編について）

再生可能エネルギーの普及にあたっては、耐久性の問題がある。太陽光パネルの処分に関する規制は、どうなっているか。

事務局

廃棄については、本計画内では記載していない。今後の検討課題であると考えている。

A 委員	将来の負の遺産にならないように、処分方法を考えておく必要があると思う。
B 委員	パネルだけでなく、蓄電池のリサイクル率も上がっている。市として、再生可能エネルギーのリサイクルを推進する方針を持っておくべきである。
会長	今年度計画を策定し、次年度以降に PDCA サイクルで進捗管理を進めていくことになるが、2030 年までのロードマップとしては本当に大丈夫なのか。
事務局	太陽光発電設備の導入については、次世代技術の発達により、ペロブスカイト太陽電池の実用化が数年内に見込まれている。今後、自治体にも導入目標が示されれば、公共施設等への導入などが考えられる。また、国交付金や助成金の活用、県との連携、情報収集等により、国・県・市で役割を分担して、普及啓発に繋げていきたいと考えている。
C 委員	P.23 の「各主体の基本的な取組」の事業者欄に記載されている各種団体とは、具体的には何を指すのか。また、取組によってどれくらいの効果があると見込んでいるか。
事務局	市内で活動する団体の事を指している。数値的な効果を算出することは難しい。
副会長	P.26 では「獣害」と記載されているが、他の計画と統一した「獣がい」が適切だと思う。
事務局	統一する。
D 委員	環境保全型農業の推進に向けた取組として、外部の企業と提携し、バイオ炭を市内の農地土壌に漉き込んだ場合、固定された CO ₂ 量が企業と市のダブルカウントにならないか。
事務局	後日、回答させていただく。 (後日確認した補足事項) J-クレジット制度の認定や登録を受ける場合は、環境価値のダブルカウントの禁止や防止措置に関する規定があるため、ダ

	ブルカウントは避けられる。
B 委員	太陽光発電設備の導入目標 14%は、感覚的に達成が難しいと思う。数値の計算方法として FIT 電源の導入量を使用しているが、現在は非 FIT 電源が主流となっており、計算方法そのものを見直す必要があると思う。
副会長	(概要版について) 再生可能エネルギーの導入目標について、概要版にも目標値の設定根拠を記載してみてもどうか。本編だけでは、一般の市民は読み取れないと思う。
事務局	検討させていただく。
副会長	市で宣言したオーガニックビレッジについても、概要版で記載した方がいいと思う。
事務局	イラスト内に入れられるよう検討する。

(2) 環境施策にかかる令和 5 年度の実施状況及び令和 6 年度の方針について

事務局	(資料 2 に基づき説明)
会長	令和 6 年度の事業方針と予算は、確定しているのか。
事務局	事業としては、施政方針に掲げており確定している。予算としては、3月26日の議会の承認をもって確定する。
D 委員	「丹波篠山のいきものたち～ささっ子編～」に関連する取り組みとして、見つけた生きものを入力フォームに報告し、情報収集を行うことは、いい取り組みだと思う。この結果は、公開されているか。
事務局	報告数が少なく、結果の公開は行っていない。今後、学校園や一般の方にも周知を図り、結果を公開していきたいと考えている。

E 委員	篠山城の堀でアカウキクサが繁茂していたが、現在は見られなくなった。掬い取ったのか。
事務局	職員による掬い取りなどで駆除し、清掃センターで焼却処分した。
E 委員	アカウキクサは、カモの脚などに付着し、周囲の圃場等に拡大することが考えられる。早期の対策が望ましいと思う。
B 委員	農都のめぐみ米の条件として、中干し期間の延長が入っていたように思う。農業分野における脱炭素の取り組みとリンクさせた方がよいのではないか。
事務局	農都のめぐみ米の条件は、中干し開始時期の延期としており、中干し期間の延長ではない。中干し開始時期の延期は、脱炭素施策としての中干し期間の延長と異なるため、区域施策編では記述を削除した。
F 委員	田んぼに避難所を設けることも条件ではないのか。
事務局	中干し開始時期の延期、もしくは田んぼに退避所となる江を設けることを条件の一つとしている。
G 委員	水稻の栽培方法として市が推奨しているのは、農都のめぐみ米である。その一方で、市はオーガニックビレッジ宣言もしている。このため、農都のめぐみ米がオーガニックなお米と勘違いされかねない。個人的な思いとしては、学校給食で有機米を使ってほしいと思う。
A 委員	丹波篠山の家に関する補助金を受けるには、市内事業者による施工でないといけないのか。
事務局	市内工務店を利用することについての補助は、必須項目ではなく、任意項目となっている。任意項目については、認定基準を満たすものに対して補助金を加算している。
副会長	本来は、予算要求や事業の継続や拡充等の判断をする際に委員の意見を参考にしてほしい。市が重要施策として行うことは、少

	なくとも今回の資料に掲載されている必要がある。国際博に関する取り組みについての掲載はないのか。
事務局	国際博については、未確定の部分が多いため、今回の資料では掲載していない。現時点では、市内の団体等による取り組みのほか、市が行う事業を紹介することを予定している。農村環境課としては、環境市民行動「丹波篠山 SDGs」やエコアップなどについての展示、もしくは映像での紹介をさせていただく。また、篠山城跡のハスについて、開花時期にホームページやパンフレットへの掲載などに取り組む予定である。
副会長	国際博に関する予算の要求状況は、どうなっているのか。
事務局	令和7年度の予算執行に向けて、令和6年度中に要求することになる。
会長	ふるさとの川再生事業や広葉樹林化事業など、測地的に場所があるものについては、ぜひマップ化して共有してほしい。サイクルツーリズムにこうしたものを組み込むことも可能だと思う。
H 委員	ふるさとの川づくり事業の実施箇所は、実際に現場を見てみたいと思う。魚道の整備は、もっと進めてほしいと思う。

(3) 森の学校復活大作戦―生物多様性ささやま戦略―の改訂について

事務局	(資料3に基づき説明)
I 委員	P.36 にオーガニックビレッジについての記述を入れた方がいいと思う。
事務局	掲載する方向で検討させていただく。
J 委員	P.42 からの取り組み実績一覧に令和5年度分は掲載できないか。
事務局	戦略策定から10年間分までの実績として掲載するため、令和4年度分までを掲載している。

副会長	数値目標がないため、現状評価がしづらいことが課題である。次の改訂時にも同じ問題が生じると思う。
事務局	本戦略は、生物多様性施策に係る市の大きな方向性を示しているものだと考えている。このため、具体的な指標等が設定しづらくなっている。次回の見直し時の改訂事項は、今後検討していきたい。
副会長	環境基本計画に関連する様々な個別施策や計画が定められているが、それぞれの計画の記載事項の確認や生物多様性戦略との関連性を踏まえ、総合的な見直しも考えた方がよいと思う。
会長	こうした計画の改訂時には、策定時の目的等が分からなくなりがちである。戦略の位置づけを説明する図や表を入れた方がよいと思う。また、策定後10年間の評価をそのまま行政計画として掲載するのは、ヒアリング結果が独り歩きするため、不適切だと思う。少なくとも評価委員を集めて意見交換をするなどが必要だと思う。
事務局	再度考えさせていただく。

(4) 環境基本計画の策定に伴う令和6年度審議会開催の増加について

事務局	(資料4に基づき説明)
会長	第2次計画策定時には、何度もワークショップを重ねて策定した。今回提示されたスケジュールも、第2次計画と同じ方法で進める場合を想定したものか。
事務局	そうである。
会長	審議会委員は、計画策定まで継続されるのか。
事務局	現在の委員の任期は、令和7年3月末までとなっており、令和7年度当初に改選がある。

会長

市が策定する計画や戦略には、同じような内容が書かれていると思う。こうしたものについては、関連付けできた方がいいと思う。

3. 閉会